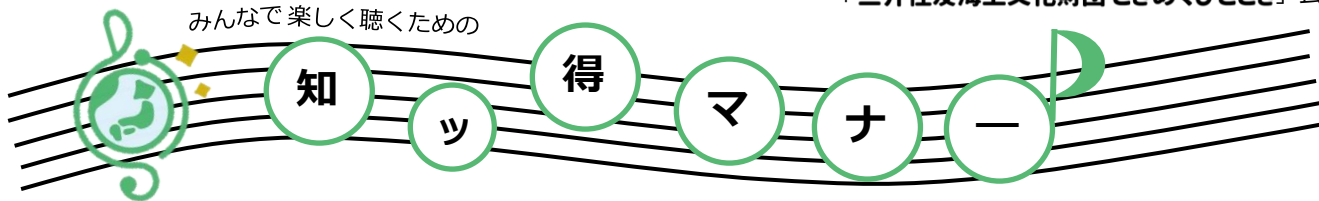


みんなで楽しく聴くための



よくある言い回し。それナゼ!?

「場内での飲食・喫煙はご遠慮ください。」

日本も海外もほとんどのコンサート会場で、飲食および喫煙は禁止になっています。日常を忘れて音楽を楽しみたいときに、隣の席から食べ物のおいやガサガサと音がしたら…集中できなくなってしまうですね。お茶等はロビーやラウンジで、休憩中にどうぞ♪

「カメラ、携帯電話での写真撮影・録音・録画はお断り申し上げます。」

シャッター音やフラッシュは真剣に音楽を聴いている人の邪魔者になります。また、出演者の肖像権侵害になるので、撮りたい気持ちはちょっと我慢。

「携帯電話やスマートフォンなどの電子機器の電源は、予めお切りください。また、時計などのアラームは解除くださいますよう、お願い申し上げます。」

着信音やアラームは、折角の良い音楽を妨げてしまいます。（一部のスマートフォンは機内モードでもアラームが鳴ります!）また、コンサート会場では、バイブレーションの振動音も意外と響きます。さらに、開演中の会場内は暗いため、液晶画面の光も目立つのです。ゆったりと音楽の時間を楽しめるように、マナーモードや機内モードではなく必ず電源は切りましょう。

「演奏中の入退場はご遠慮ください。」

ドアの開閉や席の移動は、定刻に来て真剣に聴いている人の楽しみを奪うことになります。物音がしたり、動き回ったり、明かりが差し込んだりすると意識が「動く方」になってしまうからです。演奏が始まっていたら、一曲が終わるまでドアの外でお待ちください。曲間やトークの間に席についていただきます。その時まで、スタッフの案内をお待ちください。

みんなで楽しく聴くために・・・♪

?

周りが静かで咳もできない・・・?

コンサートでは、心を落ち着けてゆったりとした気持ちで音を楽しんでいただきたい（それが音楽!）と出演者もスタッフも願っています。「私一人くらい大丈夫…」と思ったヒソヒソ話やプログラムのガサガサ音、実はとっても遠くの人にも聞こえています。せっかくの雰囲気壊さないためにも、ちょっと心配りをしてみてください。もちろん生理現象である咳はしても大丈夫。ハンカチをお口に添えて、できるだけ大きな音がしない様にしましょう。ただ、あまり止まらないときは、一度ロビーの新鮮な空気を吸ってお休みください。落ち着いたらまた客席でゆっくりお楽しみください♪（曲と曲の間でね!）

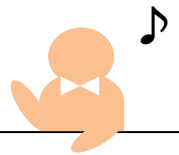
?

もし雨がふっていたら・・・?

映画館は傘ホルダーが座席の背に付いていることがありますが、コンサートの会場では見たことがありません。会場入口の傘立てを利用するか、傘袋に入れて場内へ持込みます。持込みの場合、長い傘はご自身の足下か座席下に横にして置いてください。前の座席に立てかけると、「パタンッ!」と大きな音を立てて一気に注目を浴びること間違いなし…。



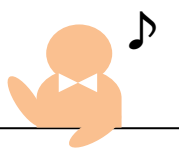
演奏される曲を知らないで楽しめない!?



そんなことはありません。「曲名は知らなかったけど、聴いたことのある曲だった」ということもよくあります。また、知らない曲でも「今日知った」ということになるのです。いくつかの楽器で演奏するアンサンブルの時は「主役」が移っていきます。主役がメイン・メロディを弾いて、他の楽器が伴奏者になります。「次の主役は誰?」と探し当てながら聴いてみてはいかがでしょうか。ソロ演奏の時は演奏者の表情や動きも見て、「楽しいの?」「悲しいの?」と想像してみてください。



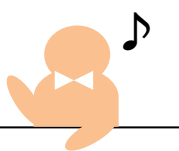
いつ拍手をして良いの・・・?



拍手はお客さまから出演者への意思表示。拍手の音が大きければ大きいほど「演奏が良かった!」「サイコー!」という意味になります。短い曲や有名な曲であれば終わりがわかるけれど、長い曲だとどうして良いか、わかりにくいですね。拍手をするタイミングがわからないときは、座っていた出演者が立ち上がったときや、立ち演奏ならばお辞儀をするときに、盛大に拍手をおくりましょう。また出演者がそのまま退場するときには、舞台袖に戻る最後まで温かく見送りましょう。



音のない“間”とは・・・?



演奏終わりの「音のない空白の時間」・・・その“間”もまだ大事な演奏の一部なのです。歌い手が声を出し切って、ふっと我に返って普通の息をし始めたとき、演奏者の腕の力がふっと抜けて下に脱力されたとき、この瞬間まで演奏は続いています。その「ふっと息が抜けた瞬間」に思わず拍手を打ちたくなる・・・その自然な気持ちで良いのです。誰よりも早く拍手を打ち始める!というのは、通のようで通でない!?

舞台ウラ事情 ～マナーからちょっとはなれて～

あれ? 開場しているのにステージでは調律中・・・?



ピアノはとても繊細な楽器で、ステージの照明やお客さまの人数・お洋服によって会場の気温や湿度が大きく変化し楽器も影響を受けます。お客さまに1番良い音で演奏を聴いてもらうために、調律師は開演直前まで調整をしているのです。

舞台転換はてんてこ舞い



次の曲のためのステージセッティング。曲によって違う楽器が必要だったり、場所を移動したり、照明のタイミングをはかったり。一見、涼しそうなステージですが、舞台袖では次の準備で緊張しています。

プログラムにはないおまけがあるかも・・・?



当日会場で配布されるプログラムには、レストランのメニューのように演奏される曲名がずらりと並んでいます。全部の演奏が終わっても、「良かった」という気持ちをアピールする拍手を続けていると、出演者が再度ステージに現れます。すると拍手のお礼の意味を込めてプレゼント演奏をします。これが「アンコール」です! 通常1~2曲を演奏します。しかし、拍手がないと演奏したくてもできないのです。ステージ上のドアが閉まらなかったり、舞台の照明がなかなか消えなかったりしていたら「アンコールがあるかも!？」とちょっと期待を込めて拍手をしてみてください。

これであなたもマナーの達人! 協力し合って、みんなできめくひとときを♪